

正常圧水頭症とは

正常圧水頭症：原因は不明で、「特発性」正常圧水頭症といわれています。

髄液とは：脳や脊髄の周囲には脳脊髄液という透明な液が存在します。この脳脊髄液は、主に脳の中（脳室と言います）で1日に約500ml作られ、脳内を下方に移動し、頭部と頸部の境目近くで脳の表面に出て、脳表や脊髄の表面を覆い、最終的には頭頂部の太い静脈や脊髄の静脈などに吸収されるといった、ゆっくりとした流れがあります。

水頭症とその症状：この髄液の産生過剰や循環通路の閉塞、吸収障害などにより、髄液が脳室などに異常に貯留して脳を圧迫する病気を水頭症といいます。

水頭症には主に循環通路の閉塞により、急激に頭痛や意識障害が発症する高圧性水頭症と、吸収障害によりゆっくりと髄液が貯留する正常圧水頭症があります。

正常水頭症に起因する症状としては、下記のようなものが挙げられます。

- 歩行障害
- 尿失禁
- 認知症 など

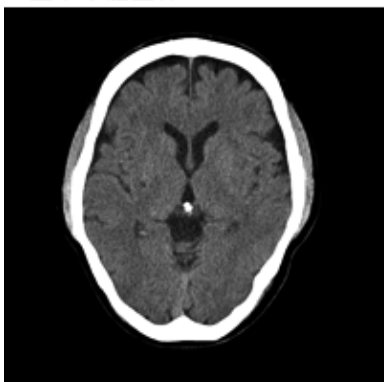


腹腔短絡術（V-P シャント）について

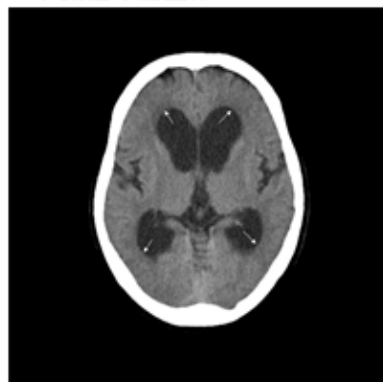
この手術は、水頭症の改善を目指すためのものです。

そのため、この手術によって、水頭症に由来する機能障害・症状（例えば、すくみ足、小刻み歩行、もの忘れ、易怒性、意欲低下、頻尿、失禁など。）については、その改善が期待できます。

■ 正常の脳画像



■ 水頭症の脳画像

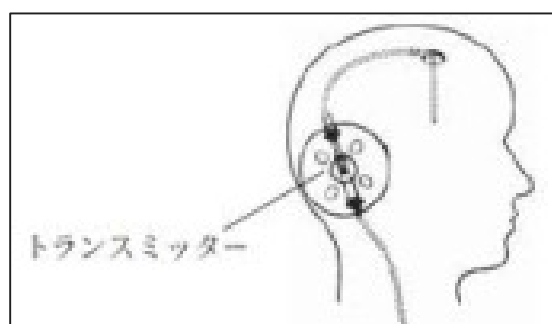


この手術は髄液を「脳室」から「腹腔」へ流す細い管（シャントチューブ）を皮下に埋め込むことを目的とします。

手術創は全部で3カ所（髪の毛の生え際あたりに数cm、耳の後ろに数mm、おへその脇に数cm）です。頭蓋骨に親指の爪くらいの大きさの穴を1カ所開け、脳室に向けて先端を挿入します。もう一方は耳の後ろ・首筋・前胸部を經由しておへその近くから腹腔内に入れます。途中、耳の後ろ上あたりにバルブという髄液の圧設定をする装置を留置します。これにより手術後も皮膚を再切開することなく外部から圧設定の調整が可能となります。

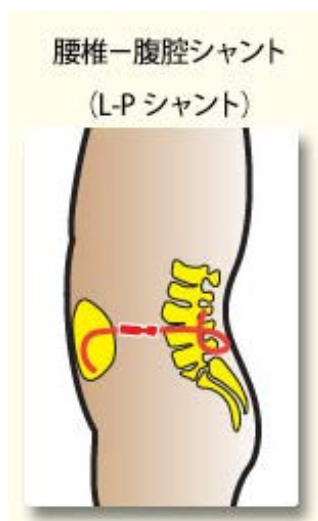


【イメージ図】



くも膜下腔腹腔短絡術（L-P シャント）について

この手術は髄液を「腰部くも膜下腔」から「腹腔」へ流す細い管（シャントチューブ）を皮下に埋め込むことを目的とします。手術創は全部で3カ所（腰背部正中に数cm、脇腹に数mm、おへその脇に数cm）です。第4腰椎の所から第2・3腰椎の間を狙って、針を刺してくも膜下腔にシャントチューブを挿入します。もう一端は側腹部を經由しておへその脇から腹腔内に入れます。途中、腰椎のすぐ近くにバルブという髄液の圧設定をする装置を留置します。これにより手術後も皮膚を再切開することなく外部から圧設定の調整が可能となります。





シャントバルブと圧変更用プログラマー（代表例）



現時点では、手術以外に効果的な水頭症の治療法はありません。

手術を行わなければ、この状況は変わらず、水頭症の進行により、徐々に症状が増悪して最終的には寝たきりに至ると予想されます。その時期については、数ヶ月後なのか、数年後、あるいは数十年後なのか、現在の知見では不明です。

一般的にこれらの手術における技術的難易度や合併症の危険性は概して高くはないといわれています。しかし、稀に生命の危険につながる重篤な合併症を生じることがあります。ご家族含め、主治医とよくご相談ください。不安に思われること、治療後の生活など、あらゆる質問に誠実にお答えいたします。